

# 令和2年度中学生チャレンジテスト(1・2年)・大阪市版チャレンジテストplus(1年)の結果概要

大阪市教育委員会

○調査実施日  
・令和3年1月13日(水)

○調査対象  
・中学校1年  
・中学校2年

○学力に関する調査  
・中学校1年: 国語、数学、英語、社会、理科  
・中学校2年: 国語、数学、英語、社会(A・B)、理科

※中学校1年の社会、理科については大阪市独自調査「大阪市版チャレンジテストplus」

○学習状況に関する調査  
・生徒アンケート

○実施校数  
・中学校1年: 131校  
・中学校2年: 131校

○実施生徒数  
・中学校1年: 16,079人  
・中学校2年: 15,492人

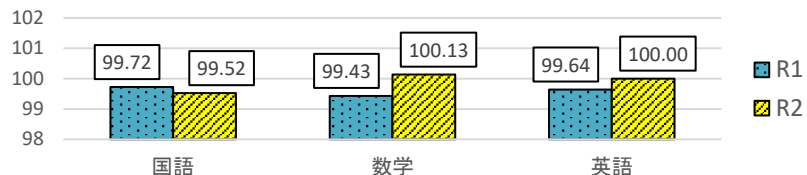
※中学生チャレンジテスト  
平均点、無解答率で表記  
( )内の数字は大阪府

※大阪市版チャレンジテストplus  
平均正答率、無解答率で表記

## 標準化得点を活用した 経年分析

【各教科の結果について】

□「国語・数学・英語」とともに、有意な差があることが統計的に示されています。



※標準化得点は年度間の相対的な比較ができるよう、大阪府平均を100として統計的に計算したものです。  
※令和2年度と元年度で、個々の生徒の対応のあるデータにより分析したものです。

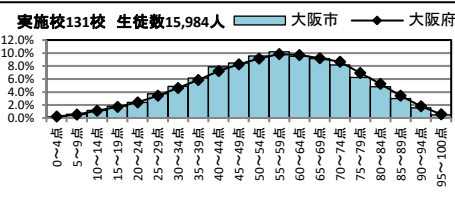
## 中学校1年【国語】

平均点

55.1(56.1)点

無解答率

12.4(12.7)



良好

- 開き手を意識し表現を工夫して話すこと
- 文章の中での接続詞の働きについて理解すること

課題

- 目的に応じて読み手に伝わるように書くこと
- 古典作品において場面や登場人物などの描写を注意して読み、内容を理解すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★案内や報告する文章では相手や目的に応じて、読み手に伝えるべき事柄を簡潔にわかりやすく書くことが大切です。新聞やポスター、パンフレットなどの記述や構成を参考にしてみましょう。
- ★古典作品を解説した本や資料に親しむとともに、作品の内容について場面や登場人物を意識して友だちなどと紹介合しましょう。

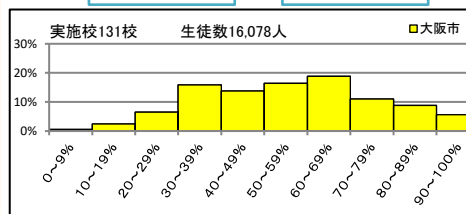
## 大阪市版チャレンジテストplus 中学校1年【社会】

平均正答率

56.2

無解答率

4.5



良好

- 歴史的な事項に関する、基礎的な知識を理解すること
- 資料をもとに考察すること

課題

- 資料を活用して、多面的、多角的に考察し、説明すること
- 資料から読み取れる情報や地理に関する既習の知識を組み合わせて判断すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★資料から読み取った情報を習ったことと結び付けて様々な側面、角度から考え、簡潔に説明しましょう。
- ★複数の情報を見比べたり結び付けたりして、傾向や特徴についてとらえていこうにしましょう。

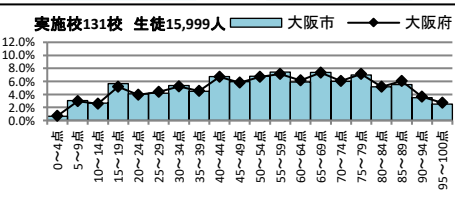
## 中学校1年【数学】

平均点

53.3(54.0)点

無解答率

8.0(8.7)



良好

- 負の数の減法をすること
- 方程式で用いる等式の性質を理解していること

課題

- 正の数と負の数の四則の混合した式を計算すること
- 方程式をつかって問題を解決するとき、必要な数量に着目した式をつくること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★四則計算の混合した式を解く際は、計算の順序を確認しましょう。また、先に計算する部分をひとかたまりとして捉え、途中式を書きながら解くようにしましょう。
- ★文字が表す数量とその関係を理解できるよう、具体的な数に置き換えて考えましょう。

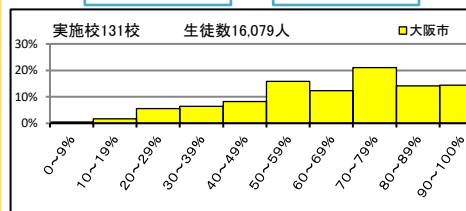
## 大阪市版チャレンジテストplus 中学校1年【理科】

平均正答率

65.6

無解答率

3.0



※「エネルギー」と「粒子」は選択問題になっています。

良好

- セキツイ動物の分類について理解すること
- 水溶液中の粒子モデルを理解すること

課題

- ばねにはたらく力とばねののびの関係をグラフに表すこと
- 物体と実像の大きさが同じであるときの、物体・凸レンズ・スクリーンの位置関係がわかること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★「変化させた量(独立変数)」と「変化する量(従属変数)」を整理して実験を計画するとともに、結果をグラフで表すときは「縦軸」と「横軸」を意識して作図しましょう。
- ★観察、実験ではデータを図、表、グラフなどの多様な形式で表したり、結果について考察したりしましょう。

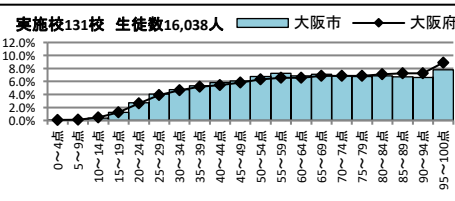
## 中学校1年【英語】

平均点

62.7(63.8)点

無解答率

3.1(3.3)



良好

- 日常的な会話を聞き取ること
- 基本的な文章や内容を読み取ること

課題

- 手紙文等を読み、理解した内容を適切な英語で書くこと
- 記事の内容から、必要となる情報を読み取ること

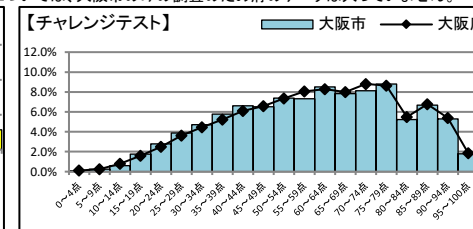
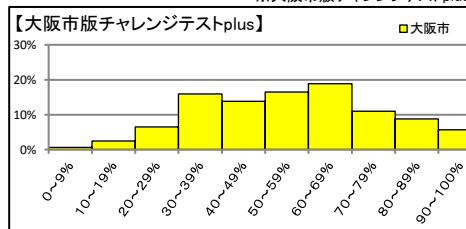
【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★まとまった英文を読んで、その英文の中で最も重要なことは何かを考えるとともに、それを簡潔な英語で書いてみましょう。
- ★記事や広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メールなど読む際は、どんな情報を得るために読むのかを意識するようにしましょう。

## データの見方

【ヒストグラム】

チャレンジテストは5点ごとに区切った得点ごとの生徒の割合を示したもの  
大阪市版チャレンジテストplusは10%ごとに区切った平均正答率ごとの生徒の割合を示したもの  
※大阪市版チャレンジテストplusについては、大阪市のみの調査のため府のデータは入っていません。

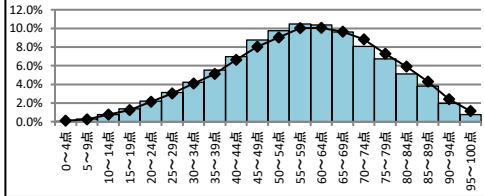


## 中学校2年【国語】

平均点  
57.1(58.3)点

無解答率  
10.6(10.1)

実施校131校 生徒数15,414人



- 良好**  
 文脈に即して漢字を正しく読むこと  
 話し合いの話題や方向をとらえ、的確に話すこと
- 課題**  
 文章の内容をとらえ、筆者の考えを理解すること  
 相手に効果的に伝えるように、具体例を加えたり描写を工夫したりして書くこと

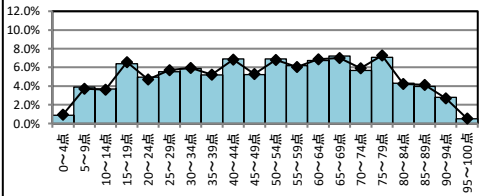
【これからの学習に向けたアドバイス】  
 ★説明文では、各段落の順序や具体例が筆者の考えの説明にどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むようにしましょう。  
 ★文章を書くときは、友だちなどと表現の工夫について紹介し合ったり、読み手の立場になってその工夫が効果的かどうかについて検討しましょう。

## 中学校2年【数学】

平均点  
49.3(49.4)点

無解答率  
9.4(10.0)

実施校131校 生徒数15,437人



- 良好**  
 整式の加法と減法の計算をすること  
 三角形の外角とそれに隣合わない2つの内角の和の関係を理解すること
- 課題**  
 着目する数量の関係を式に表すこと  
 与えられた図表から、必要な情報を適切に読み取り、事象を数学的に解釈すること

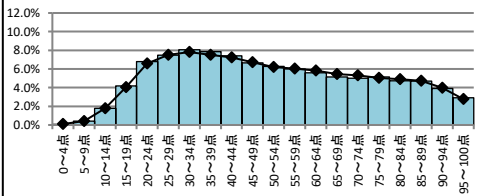
【これからの学習に向けたアドバイス】  
 ★方程式の立式では数量の関係を捉え、捉えた数量を表や線分図などで表してみましょう。  
 ★一次関数について、表や式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することで理解を深めましょう。

## 中学校2年【英語】

平均点  
51.7(52.0)点

無解答率  
4.8(4.8)

実施校131校 生徒数15,463人



- 良好**  
 説明している内容から必要となる情報を聞き取ること  
 日常的な話題についての会話文から概要を読み取ること
- 課題**  
 会話の流れに沿って、適切な英文を書くこと  
 まとまった英文を読んで、必要となる情報や要点を読み取ること

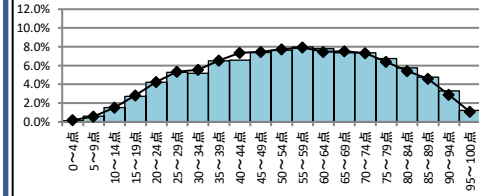
【これからの学習に向けたアドバイス】  
 ★会話では、目的や場面に応じて、どの文法事項や表現を使うのが適切なのかを考えるとともに、伝えたいことについて整理したり確認したりしてみましょう。  
 ★まとまった英文を読む際は、接続詞に注目しながら、文章の流れを理解するためのキーワードを見つけるようにしましょう。

## 中学校2年【社会A】

平均点  
55.2(54.5)点

無解答率  
5.5(5.8)

実施校116校 生徒数13,374人



- 良好**  
 歴史上の出来事や社会的事象について、基礎的な知識を理解すること  
 人口ピラミッドの変化から、日本の人口に関する特色を理解すること
- 課題**  
 資料から読み取れる情報を踏まえて考察し、適切に説明すること  
 複数の資料から読み取れる情報を関連付け、社会的事象から地理的な課題を考察すること

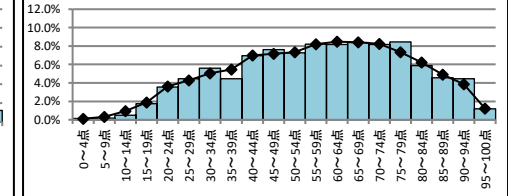
【これからの学習に向けたアドバイス】  
 ★資料等を有効に活用して根拠を明確にする等、論理的に説明しましょう。  
 ★複数の情報を見比べたり結び付けたりして、社会的な事柄や出来事の意味や特色などを捉えるとともに、社会的事象が日常生活にどのような影響を与えているのかを考えるようにしましょう。

## 中学校2年【社会B】

平均点  
57.9(57.4)点

無解答率  
4.4(4.8)

実施校15校 生徒数2,104人

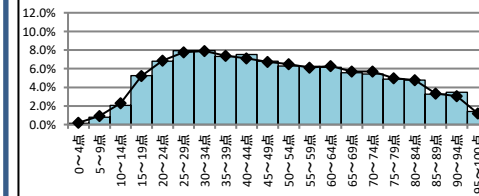


## 中学校2年【理科】

平均点  
49.8(49.5)点

無解答率  
5.4(5.8)

実施校131校 生徒数15,492人



- 良好**  
 動物を分類する際に着目すべき特徴を理解していること  
 物質が酸化されるときの質量の変化について理解すること
- 課題**  
 実験結果を分析して科学的に考察すること  
 酸化物を還元する物質の特徴について考え、表現すること

【これからの学習に向けたアドバイス】  
 ★観察や実験は、「何のために行うのか」、「どのような結果が予想されるのか」を考えながら行い、結果を自分の予想と比べながら考察するとともに、結果から何がわかるのかも考えるようにしましょう。  
 ★身の回りのものや現象について、これまで学習したことと関連付けて考えたり、説明したりする機会をつくりましょう。

■本調査の結果をもとに、学力向上に向けて「振り返りプリント」を学校で配付しています。ご活用ください。

■今回お知らせする調査結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

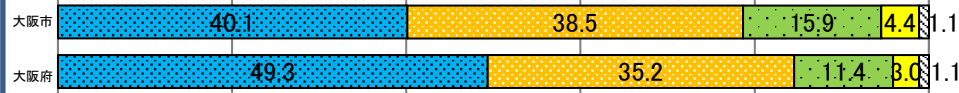
■本調査の結果とともに「ワークブック」や「かだめしプリント」などの学習に役立つ情報については、大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課のWebページにおいてもお知らせしていますので、ご活用ください。  
 ○復習教材 [http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/r01\\_3\\_fukushu.html](http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/r01_3_fukushu.html)

## 1年生におけるアンケート結果

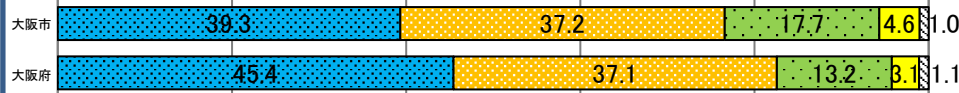
1-7 ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □無回答

8 ■4時間以上 ■3時間以上、4時間未満 ■2時間以上、3時間未満 ■1時間以上、2時間未満 ■0分以上、1時間未満 ■0分未満 ■携帯電話やスマートフォンを持っていない ■無回答

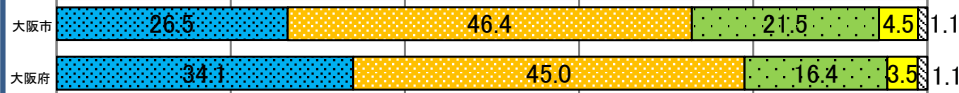
### 1. 授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



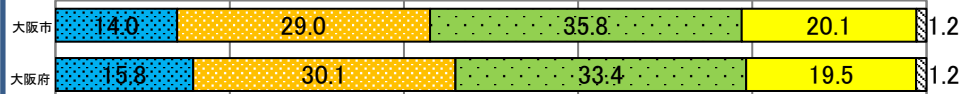
### 2. 授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



### 3. 授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



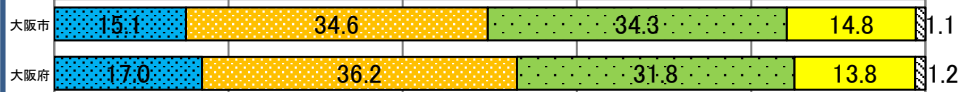
### 4. 授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



### 5. 授業中、間違っても笑われない。



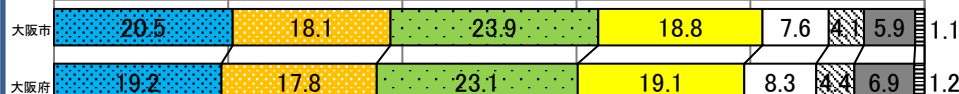
### 6. 自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



### 7. テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。



### 8. 普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。

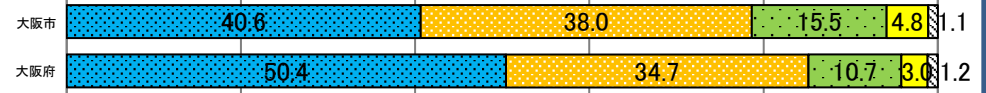


## 2年生におけるアンケート結果

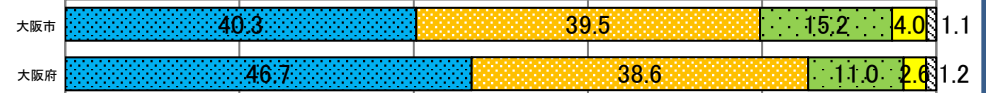
1-7 ■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □無回答

8 ■4時間以上 ■3時間以上、4時間未満 ■2時間以上、3時間未満 ■1時間以上、2時間未満 ■0分以上、1時間未満 ■0分未満 ■携帯電話やスマートフォンを持っていない ■無回答

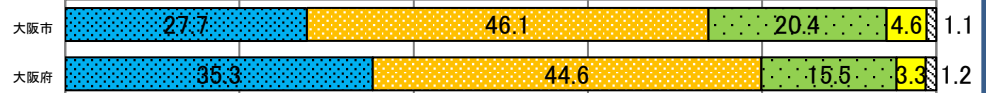
### 1. 授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。



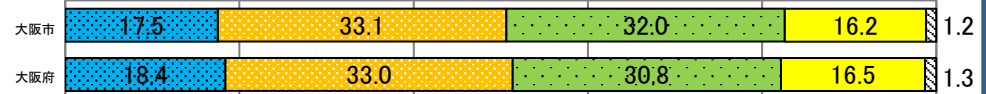
### 2. 授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。



### 3. 授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。



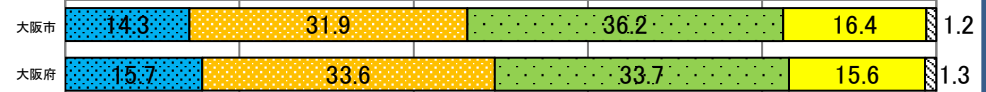
### 4. 授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。



### 5. 授業中、間違っても笑われない。



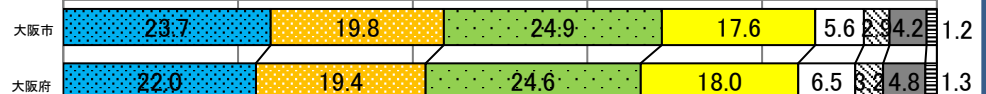
### 6. 自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。



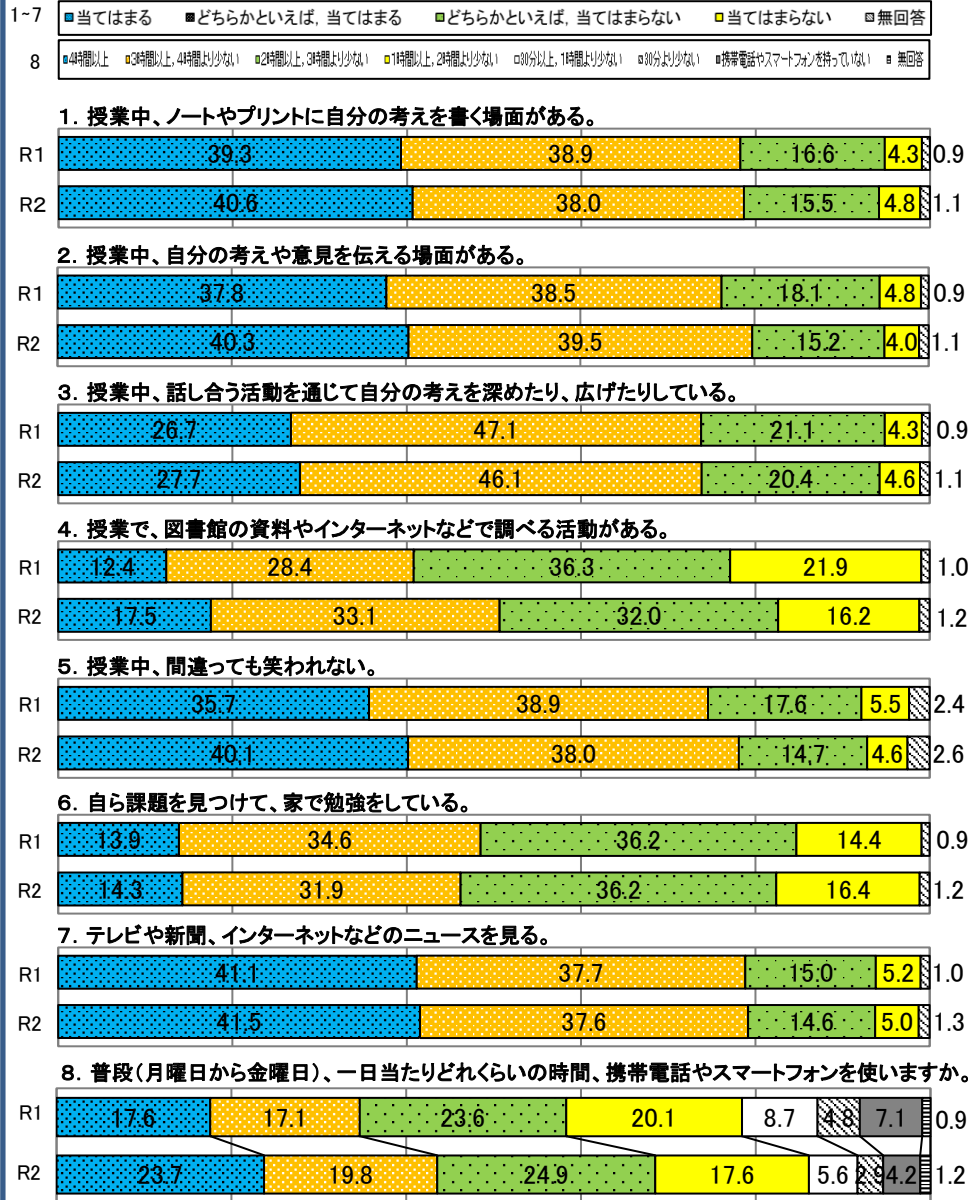
### 7. テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。



### 8. 普段(月曜日から金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



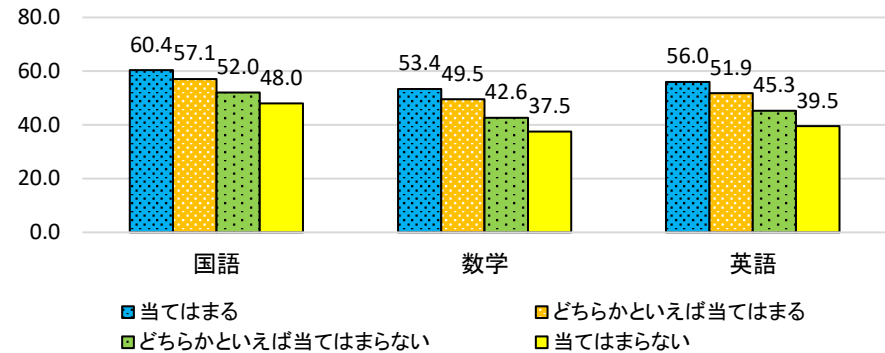
令和2年度2年生と令和元年度1年生 アンケートの結果比較



令和2年度 質問紙と学力のクロス分析

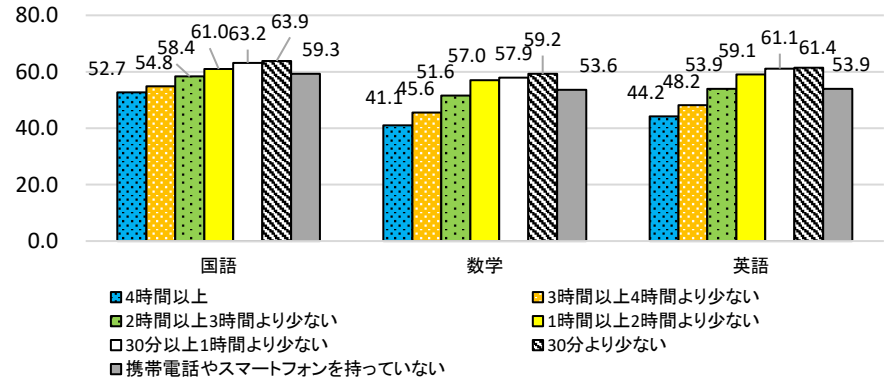
【中1】【中2】

○授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面があると回答している生徒の方が教科の平均点が高い傾向がみられます。



【中1】【中2】

○携帯電話やスマートフォンを持っている生徒で、普段(月曜日から金曜日)の使用時間が短い生徒の方が教科の平均点が高い傾向がみられます。



■こうした傾向を参考にしながら、学習方法や生活習慣などを振り返りましょう。